

課題分析	授業改善推進プラン
<p>1 知識・技能</p> <p>定期考査等の結果から、基礎的な内容を理解している生徒は多い。しかし、学習内容が定着している生徒としていない生徒の差が顕著に表れているため、理科に苦手意識をもつ生徒の底上げが必要である。また、実験への取組についても全体的に良好であるが、実験操作の理由を理解して取り組むことでさらなる実験技能の応用力向上に繋げる。</p> <p>2 思考・判断・表現</p> <p>毎回の実験後に提出させている実験プリントの考察欄や、定期考査の記述問題の正答率を見ると、自らの言葉で表現する能力は身に付いていることがわかる。今後は表現力だけでなく、思考力についてもさらなる向上を図りたい。</p> <p>3 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>自然事象について積極的に学ぼうという姿勢をもった生徒が多い。一方で、理科の授業内容に対する関心の低い生徒も少なからずいるというのが現状である。</p>	<p>1 知識・技能</p> <p><b>小單元ごとに計画的に問題演習や小テスト等を実施し、基礎学力の定着が疎かにならないようにする。</b>また、実験活動を行う際には、ポイントとなる実験操作の理由を考へてから取り組むことで、より高いレベルで実験技能を身に付けられるように指導を行う。</p> <p>2 思考・判断・表現</p> <p><u>観察・実験活動を多く取り入れ、そのた</u> <u>びに考察を書かせることで、表現力の向上</u> <u>につなげる。</u>また、思考力のさらなる向上につなげるため、<b>課題を解決するためには</b> <b>どのような実験操作を行えばよいか生徒自身で考へ、実験活動を行うという課題解決型の実験活動を取り入れる。</b></p> <p>3 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>一単位時間の「ねらい」を明確にして授業を行う。また、授業において多くの生徒に発言をさせ、発言内容を認めることで、さらに意欲的に授業へ参加させるように促す。</p>